



『7月14日倉敷教会巡回』

倉敷巡回の前に、月報クリストファープレスを見せたいいただきました。平野一郎司祭が東日本大震災のボランティアに行かれ、小名浜の教会で行われていた「ほっこりカフェ」を倉敷の教会に導入されて、4月3日、5周年のことでした。

「最近はどうですか」と現状をお伺いしますと、毎週水曜日、午後2時半から5時半まで。最初の1時間は「ほっこり」お茶を飲み、その後第2部は、第1週「聖書の輪読会」、第2週「聖書から人生を学ぶ」、第3週「キリスト教講話」、第4週「聖歌を歌う」というプログラムです、とのこと。5年間続いていることに感心しながらの巡回でした。

『なんでも聞いちゃだめ』

当日、管理牧師の平野司祭は、福山教会に行かれていますから、礼拝は私が担当。礼拝後、昼食を頂きながら、

「主教さんが倉敷に来られるのは一年に一度、何でも聞いてください」と上野さんの合図で質問がスタート。

「ほっこりカフェがきっかけになって礼拝に来られるようになった方が「聖書を読み、これをしなさい、ばかりで大変です。」と質問されました。それに答えて、私は「最初から命令が多いとは思いますが、それ以上に、神様が何をしてくださったか、そのことに集中されたらと思います。父なる神様は、イエス様を遣わして、神様が私たちを愛してくださっていることを伝え、死からの復活によって永遠の命を与えて下さっているのです。」とお話をしました。「それを信じるのが難しいのです。」というお返事を頂き、横におられた方からは「早く洗礼を受けなさい」というお勧めがあったり、私の方は、その時丁度読んでいましたヘンリー・ナウエンの『放蕩息子の帰郷』から神様の愛を証しすることが出来ました。小さいけれども一つの働きを神様が用いてくださっていることに感謝した巡回でした。

(神戸教区主教)

神戸教区 神学塾主催 信徒セミナー報告

去る2019年7月6日

(土)に岡山聖オーガスチン教会に於いて2019年度第1回目の神戸教区神学塾主催信徒セミナーが開講されました。講師は、昨年に続き京都教区の黒田裕司祭(ウイリアムス神学館館長)をお招きし、橋渡しの奉仕に向けて「信徒の奉仕職」その意義と可能性」というテーマに沿って講話が行われました。

信徒と聖職、一人ひとりに よる働きの大切さ

今回のセミナーには14名内スタッフ2名が参加して下さいました。講義の冒頭、黒田司祭はカリスマ性を持ったスターのような人材のリーダーシップによる教会宣教、営み等は過去の教会の歩みの中でみられることがあるが、今日において求められているものは、信徒・聖職一人ひとりの参与、「トータル・コミットメント」であると述べられました。

セミナーの内容

セミナーの流れとしては、
1. 信徒奉仕職という言葉、日本聖公会における信徒奉事者についての解説から始まり、
2. 信徒奉仕職の歴史を丁寧な概観、特に英国聖公会での信徒奉仕職の変遷、
3. 今日の英国聖公会における信徒奉仕職の紹介、
4. 「協働的ミニストリー」及び信徒奉仕職、
5. アングリカン・コミユニオンにおける最近の動向についての解説があり、最終的な「まとめ」、質疑応答というものであります。

今後の課題

講話を通して感じた点は、海外の聖公会管区の諸教会における信徒奉仕職の働きは、日本聖公会と比べて多岐に渡り、それに携わる信徒の方々のための養成プログラム、財政面も充実しており、その格差は歴然としていることでありました。今後、神戸教区がこのような多様な情報、資料をどのようにして適用し、活力に満ちた教会宣教を行っていくかが課題であると感じております。

全世界聖公会レベルでは、「信徒奉仕職」は21世紀の教会宣教においては必須のものとして考察されています。講義の中でも意見が交わされましたが、今後の日本聖公会における「信徒奉事者」には、どのような働きが求められているのか? どのようなことができるのかという点に関する活発な意見交換が教区、各教会にて行われる必要があると感じた次第であります。



(司祭 和広・
神学塾運営委員)